2025
6
June
No.270

JA とまこまい広域

燦々

SANSAN
光り輝く

特集　HBC北海道放送「あぐり王国北海道NEXT」で厚真産のほうれん草をPR

厚真町豊川地区郷野晃慈さんの圃場にて

JAとまこまい広域広報誌
燦々～光り輝く～
No.270

JAとまこまい広域

■編集・発行■
〒059-1693
JAとまこまい広域本所
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2
TEL 0145-27-2241 FAX 0145-27-3941
令和7年6月10日
ホームページアドレス http://www.ja-tomakomaikouiki.com
メールアドレス info@ja-tomakomaikouiki.com

■印刷■ 株式会社 須田製版

JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第7回「業界を代表する候補者を選ぶことの重要性」について

農政活動の柱の一つが、生産現場の声を代弁し、国や行政に積極的な働きかけをしてくれる議員を政治の場に送り出し、支えていくことです。そのため、JAグループにとって最も重要なのが「参議院選挙比例代表」です。

重要な当選順位

参議院選挙の比例代表には、様々な業界や団体が代表候補を送り出しており、いかに多くの票数を獲得し、当選順位を上げるかということにどの団体も惜しみなく努力しています。これは、高い順位で当選した候補者は、党内での発言力が増し、政策実現に近づくことができるからです。

過去の参議院選挙（比例代表）

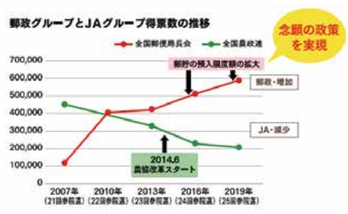
2019年の自民党の比例代表の得票数順位を見てみると、第1位は郵政グループで60万票獲得しており、JAグループは約21万票でした。結果、郵政グループは悲願だった「貯金預入限度額の拡大」を実現しています。一方、JAグループの得票数は2022年の選挙の際には18万票まで減少してしまい、このままでは私たちJAグループの声、要望を実現することが困難になる危機的状況に陥ることになります。

問われる組織力

このように選挙の結果、業界や団体ごとの得票数が分かります。市町村別にも得票数が公表されます。この得票数によって我々JAグループの力が測られることになります。つまり、参議院選挙(比例代表)は、我が国の農業、JAグループのための組織選挙であります。

組織力の結集を!

多くの得票数を得て高い順位で当選した候補者は、政府・与党内での発言力が増し、政策の実現可能性が高まります。過去の参議院選挙(比例代表)での危機感を踏まえ、改めて組織選挙の意義を共有の上、候補者の認知度を高め、組織力の結集による運動を徹底することが大切です。



自民党　全国比例区　得票数順位（2019年）

団体・業界	得票数	議員名
1. 郵政	60万票	柘植芳文
2.（漫画など）	54万票	山田太郎
4. 防衛関係	24万票	佐藤正久
5. 建設	23万票	佐藤信秋
7. JA	21万票	山田俊男

※2022年　18万票　藤木しんや

東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年まで連載いたします。次回(最終回)は、「JAグループの代表議員がなぜ必要なのか」について報告します。

東野ひでき北海道後援会

JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

最終回「JAグループの代表議員がなぜ必要なのか」について

JAグループの声を!

JAグループの農政運動の目的は、「農政（農業・農村・農協政策）」にJAグループの声を反映させて、生産現場の課題解決を図ることです。そのため、農政を決定する政府・与党の中に、農業・地域・JAグループへの理解者を増やすことが農政活動の強化につながります。

組織力の結集を!

JAグループの様々な事業に対し措置されてきた予算・税制等の政策支援は、これまでの農政運動を通じて確保してきたものです。これらの政策支援を維持・発展させるためには、JAグループが団結して農政運動を行うことが必要です。組合員や役職員一人一人の力は小さいですが、組織としてまとまることで"力"となります。

働きかけと支援を!

農業の実情を知る議員がいることによって、政府・与党内に農業現場の実情を伝えることが可能となります。そのため、JAグループの声を代弁し、政府・与党に積極的な働きかけを行う議員に対して、組織でまとまり、活動を支え、連携することが、政策実現のカギとなります。

我々の代表を!

国会(政治)は数が力です。国を動かすには、国会に一人でも多くの農業やJAの理解者を増やすことが重要です。そのために、我々JAグループの代弁者として、先頭に立って多くの国会議員に働きかけ、農業やJAの理解者を増やし、まとめていくことができる議員、つまり、JAグループの代表議員が必要なのです。

農政活動の強化に向けて!

国民への食料の安定供給、環境との調和、組合員の所得増大、農業・農村の持続的発展等に向けた生産現場の課題解決のために、今こそ我々JAグループの組織力の発揮が必要なのです。

東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから

【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、全8回連載いたしました。

東野ひでき北海道後援会

▼生産者の郷野晃慈さんと出演者

あぐり王国北海道NEXT「厚真町の冷涼な気候を利用したほうれん草に着目」編
ほうれん草の魅力
～生産現場から食卓まで～

郷野さんの圃場で収穫されたほうれん草▶

5月24日17:00オンエアのHBC北海道放送『あぐり王国北海道NEXT』にて、当JA管内厚真町で生産されている〝ほうれん草〟が取り上げられた。

JAグループ北海道の提供で製作される同番組は、TEAM NACSの森崎博之リーダーと森結有花アナウンサーを中心に道内各地の生産現場を訪ね、生産者の思いを伝えるとともに、北海道農業の魅力を発信する。

今回番組では、新規就農から3年目を迎えた厚真町豊川地区の郷野晃慈さんの圃場で、ほうれん草の収穫を体験。鎌を使って刈り取るところから、下葉の処理や目視によるチェックを行うなど選果施設へ届けられる前にも繊細な作業が欠かせないことが視聴者へ伝えられた。出演者たちは収穫直後のほうれん草を試食。森崎博之リーダーはその甘さとみずみずしさに驚きを隠せていない様子だった。

圃場から同町上野地区にある選果施設へ場所を移した一行は、JA職員らが行う選果作業を見学。そ菜園芸課の伊藤賢治職員より袋詰めされ出荷に至るまでの選果の流れが説明された。(JAとまこまい広域とJAむかわは、東いぶり広域ほうれん草組合として同じ基準のもと、それぞれの施設で共選作業を行い、共同出荷している)伊藤職員は「高品質な『東いぶり広域ほうれん草』を少しでも多くの消費者へ届けるため、頑張っていきたい」とPR。

番組後半では、同町で農業を営んでいる猪師恵さん考案の『ほうれん草のジェノベーゼ風パスタ』と『ほうれん草のパンケーキ』が振る舞われた。意外な組み合わせに興味津々な出演者たちは、終始満足そうに口にしていた。

生産現場から食卓へ届くまでと、ほうれん草の魅力がたくさん詰まった番組となった。

燦々 SANSAN 光り輝く

No.270 CONTENTS

01 特集 あぐり王国北海道NEXT「厚真町の冷涼な気候を利用したほうれん草に着目」編 ほうれん草の魅力～生産現場から食卓まで～

03 カメラレポート

07 ・南瓜定植作業開始
・【厚真】田植えスタート

08 令和7年度 JAとまこまい広域 生産組織、組織代表者、事務局担当者名簿

09 ・理事会報告
・【広域】ホクレン新採用職員の農協・農作業実習

10 期待の農力 中西幸仁さん

11 ワンポイント営農情報

12 あぐり講座

13 JAからのお知らせ

14 ・農産担当者道外消費地視察研修
・水稲の奨励品種現地試験に向けた播種作業

裏表紙 JAグループ北海道の農政活動強化に向けて
・第7回「業界を代表する候補者を選ぶことの重要性」について
・最終回「JAグループの代表議員がなぜ必要なのか」について

HBC北海道放送「あぐり王国北海道NEXT」で厚真産のほうれん草をPR。撮影では厚真町豊川地区の郷野晃慈さんの圃場やJAの選果施設を巡ったほか、ほうれん草を使った料理が放送された。

▲もぎたてを試食する森崎リーダー

▲選果の流れを説明する伊藤職員

▲ほうれん草を使った料理

地域の話題をパチリと

カメラレポート

広域

第24回職員研修大会開催
～〝活力ある職場〟にするために～

JAとまこまい広域は4月24日、厚真町総合福祉センターで第24回職員研修大会を開催し、総勢143名が参加した。同大会は全職員の団結とコンプライアンス周知を目的に毎年開催されている。

ビデオメッセージによる開会あいさつで堀組合長は「チームワークが農協の基礎であり、それに欠かせないのが互いの信頼です。個々の能力には差があり、ミスや勘違いも起こり得ますが、それらを認め謝罪することでその人の信頼と価値を高めるでしょう」と言葉を贈られた。

開会に先立ち行われた新採用職員紹介では、令和6年度期中採用職員と令和7年度新採用職員が紹介され、壇上で抱負を述べた。また、永年勤続表彰を含む各種表彰では該当の職員が登壇し、石橋専務より表彰状や副賞が手渡された。

北海道中央会札幌支所による職員のコンプライアンス研修では、「活力ある職場」が取り上げられ、仕事を楽しむためにはどうしたらよいか理解を深めるべくビデオ視聴やグループ討議が行われた。研修を通じて、不祥事を起こさないためのコンプライアンスではなく、職員が意欲的に働き、JAとしての成果が上がるといった前向きな取り組みとしてのコンプライアンスを学んだ。

▲抱負を語る新採用職員

▲資格取得者を代表して登壇した中塚主任

▲グループ討議の様子

広域

いちご部会目慣らし会開催
～新規就農者とベテラン生産者の融合～

JAとまこまい広域いちご部会は5月7日、厚真町上野地区にある選果施設でいちごの目慣らし会を開催した。同会には生産者15名のほか、胆振農業改良普及センターや市場の担当者など各関係機関が出席し、市況や出荷規格の共有を図った。

開催にあたって山川克基部会長は「温度管理が品質に直結します。ビニールハウス側面の開閉をこまめに行うなど、温度管理を徹底し高品質のいちごを出荷できるよう努めましょう」とあいさつした。

出荷説明会では、普及センター担当者より農薬散布に関する留意点が説明され、薬害・病害虫発生の防止や防除前の作業方法について理解を深めたほか、部会事務局より着色フローチャートを用いて出荷時の着色度合いの確認や出荷規格ごとのパック詰めに関して説明された。

厚真町研修農場が育成・支援している経緯もあり、新規就農者の加入が増えている同部会。産地としてのブランド力を高めていくため、新規就農者とベテランの生産者が互いに手を取り合いながら部会一丸となることを再認識する目慣らし会となった。

▲出荷説明をする坂口職員（部会事務局）

▲目慣らし会に参加した生産者たち

白老

白老和牛生産改良組合
獣魂慰霊祭開催

5月23日（金）、白老町真證寺にて獣魂慰霊祭（白老和牛生産改良組合主催）が執り行われ、組合員および関係者ら23名が参加した。

獣魂慰霊祭は人々の生活の糧として犠牲となった家畜の御霊を供養し、命の恵みに感謝するために年1回行われている。

開催にあたり白老和牛生産改良組合の中村組合長は「お忙しい中、関係機関含め多くの方にご出席いただき、無事獣魂慰霊祭を終えることが出来ましたことに深く感謝申し上げます。昨年から素牛市場相場、枝肉市場相場ともに厳しい状況が続いております。行政、JA、獣医師の方々のお力添えをいただきながら畜産農家一丸となって乗り越えていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします」と話した。

▲獣魂慰霊祭の様子

▲挨拶する中村組合長

▲慰霊碑に手を合わせる石橋代表理事専務

早来

適正処理の励行
令和7年度 第1回早来地区廃プラ一括回収

安平町早来農業用廃プラスチック適正処理対策協議会は農業用廃プラスチック等の一括回収を5月21日（水）、安平町遠浅にて行った。

早来地区では年3回の一括回収を行っており、今回はその1回目である。今回の回収では45戸から、農業用ビニール・農業用POで21,265kgの回収となり、昨年より1,821kg多い回収となった。

廃プラスチックの不法投棄、野焼きは廃棄物の処理及び清掃に関する法律第十六条の二において禁止されており、違反すると5年以下の懲役、若しくは1,000万円以下の罰金または、その両方が科せられる。なお、法人の場合は3億円以下の罰金が科せられる。また、環境汚染にも繋がるため、農業者の方々には適正処理への意識と関心をさらに高めて頂きたい。

翌22日、北斗市にある日本公防株式会社が回収し、トレーラー4台で運搬した。

同協議会での廃プラ一括回収は、7月中旬に2回目の回収、11月中旬に3回目の回収を予定している。

▲回収している様子

▲堆積された廃プラをトレーラーに積み込む様子

地域の話題をパチリと

カメラレポート

追分

今年の販売目標 金額3億6百2十5万円

追分アサヒメロン初出荷・初競り

▲検査員によるチェックが行われる様子

春の陽気に名残を感じる5月12日。

事前に4月25日と5月7日に早期巡回を2回に渡り実施し、今年も安平町野菜共同集出荷場にて、安平町追分地区特産のアサヒメロンが初出荷を迎えた。

今年の初出荷となったのは、追分旭地区の林出一樹さんと追分向陽地区の新井真人さんの2名の生産者。昨年より8ケース多い初出荷となり、計45箱を出荷。初出荷を迎えた林出さんは「今年は前年に比べ気温が低く、日照時間も短かかったため管理に苦労し不安もあったが、ハウス内の温度をあげるなど工夫したことで、玉の生育は順調に進み、糖分も基準値の14％を超える15・6％と十分な仕上がりで、高品質なメロンを出荷できたことにほっとしている」と話してくれた。

出荷同日、安平町野菜共同集出荷場では、初出荷セレモニーが行われ、綺麗にネットが張られたメロンの姿が、安平町をはじめ、市場、JA、普及センターなどの関係者や報道陣にお披露目された。

セレモニーにて、追分アサヒメロン組合の安井貴志組合長は、「昨年は出荷で6万箱を超え、販売金額についても、3億円を超える実績を迎えることができた。今年度の出荷目標は、生産者25件と実践農場1組であり、栽培面積26・0ha、出荷数6万1千2百5十箱、金額3億6百2十5万円の目標としている。この目標に向かいメロン組合は安心・安全で美味しいメロンを消費者に届け続けることを第一に、本日ご出席いただいている関係機関の皆様のご協力をいただきながら達成できるよう出荷に努めていきたい」と挨拶し、セレモニー後早速翌日の初競りに向けてアサヒメロンの選作業が始まった。

翌13日、札幌みらい中央青果で行われた初競りでは、開始早々アサヒメロンの周りには多くの人だかりができていた。最高値は一箱30万円（秀品5玉入り）となり、今回出荷された45箱合計で、およそ2百5十8万（税込）と、幸先の良いスタートとなった。

▲初出荷された高品質なアサヒメロン

▲試食用にカットされたアサヒメロン

▲祝辞を述べる堀組合長

▲初競りで取引されたアサヒメロン

▲市場関係者らにお披露目されたアサヒメロン

穂別

組織一丸となって取り組んでいきたい

二俣水稲共同育苗施設利用組合　籾伏せ作業開始

4月24日から穂別二俣地区の二俣水稲共同育苗施設利用組合（清川三十四組合長）では田植えに向けて、共同で籾伏せ作業が行われた。

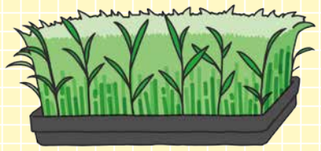
組合は水稲生産農家6戸で構成されており、作業には各戸2名以上が出役し、1日当たり約4，900枚の育苗箱に籾伏せをしている。本年度は委託も含めて約18，000枚を計画している。

同組合の清川組合長は「田植えまで徹底した温度管理を行い、健全な苗を育てられるように、組織一丸となって取り組んでいきたい」と意気込みを語った。

籾伏せ作業は5月初めまで行われ、育苗機で数日温めて発芽させている。その後は、ビニールハウスで2～3週間育てられ、5月中旬から田植えを迎える予定。

▲こぼれやすいため慎重に作業が行われた

▲仲間と談笑し、笑顔を見せる清川三十四組合長



穂別

育苗中の温度管理に注意

春期水稲現地集合研修会の開催

JAとまこまい広域米生産振興会穂別支部（森本豊支部長）は5月2日、東胆振普及センターの担当者を講師に招き、むかわ町穂別のニサナイ地区などの4地区で春期水稲現地集合研修会を開催した。

同研修会は、高品質と収量確保の為、今後の管理ポイントを再確認することを目的に、毎年この時期に実施されている。

昨年度の状況について「記録的な高温で生育が早く進んだが、タンパク質含有率の増加や倒伏が多発し、食味や品質への影響が見られた年だった」と振り返った。

今夏も予想される高温対策として「基本技術の確実な実施、ケイ酸資材の積極的な投入、出穂以降に掛け流しなどの水管理を行い、地温や水温を下げることが有効」と説明した。

生産者の関心は高く、多くの質問が寄せられていた。

▲現地研修会の様子

南瓜定植作業開始
早期出荷をすることで有利販売につなげたい

むかわ町穂別地区の主要農産物である「南瓜」の定植作業が始まった。

JAとまこまい広域南瓜生産部会穂別支部（石崎憲一支部長）では、生産者 66 戸、作付面積約 305ha、生産量 4,270t、販売高 492,400 千円を計画している。

この時期に定植された南瓜はトンネル栽培を行っており、霜の被害を軽減するとともに、早期に出荷をすることができるため、有利販売につながるメリットがある。7 月下旬には収穫が始まり、８月上旬より出荷される予定だ。

５月８日から定植を開始した部会員の森山幸治さんは「4 月に雨が多く、畑に機械が入れない状況が続いたため、全体的に作業が遅れてしまい、定植時期は昨年に比べると 4 日ほどずれ込んだ。今後、日中の気温は上がっていく予報になっているのでホッとしている。ただ夜温が低い日は続くため、気を緩めないように作業に臨みたい」と話す。

▲作業を行う様子

▲定植された南瓜の苗

【厚真】
田植えスタート ～東和地区畑嶋宏謙さんが先陣を切る～

JAとまこまい広域管内の厚真町東和地区で5月9日、畑嶋宏謙さん（33歳）が先陣を切って令和7年産米の田植えをスタートさせた。当JA管内では231戸・約2,340haの作付けが計画されている。

昨年に引き続き管内で最も早い田植え開始となった畑嶋さんは、約40haの水田に「ななつぼし」「ゆめぴりか」と直播「えみまる」の3品種を、26日までを目途に作業を行う予定だ。

畑嶋さんは育苗について「天気の悪い日が多かった割に、平年並みで生育が進んでくれた」と語り、日照時間や積算温度不足が懸念される中で、ハウス内の温度管理に神経をとがらせた育苗期間を振り返った。また9月の収穫に向けて「昨年の夏同様、今夏も暑くなることが予想される。管理を徹底しておいしいお米を作れるよう頑張りたい」と抱負を語った。

厚真町内では畑嶋さんに続いて、11日から桜丘地区の森田明央さん（58歳）、厚真地区の木村幸一さん（83歳）、幌内地区の木戸正人さん（59歳）らが田植えをスタートさせている。

田植え機に苗を積み込む宏謙さんと妻の佳奈さん

田植え機を操縦する様子

令和7年度 JAとまこまい広域 生産組織、組織代表者、事務局担当者名簿

令和7年5月1日時点

組織名	役職名 会長	副会長	事務局	地区名	組織名	役職名 会長	副会長	事務局
広域米生産振興会	森本　豊	長澤　健次	中村　清人	早　来	米生産振興会早来支部	阿部　修一	川田　毅	戸坂　嘉伸
				追　分	追分米生産振興会	長澤　健次	友広　博	中泉　英男
				厚　真	米生産振興会厚真支部	早坂　信一	高橋　清吾	大島　裕孝
				穂　別	JAとまこまい広域米生産振興会穂別支部	森本　豊	星　正寛	遠藤　拓
広域畑作連絡協議会	安井　貴志	荒城　一憲	上田　周志	安　平	麦生産振興会安平支部	安井　貴志	高橋　良夫	中泉　英男
				厚　真	厚真町畑作振興会麦部会	荒城　一憲	工藤　英暢	森　昌弘
				穂　別	JAとまこまい広域麦生産振興会穂別支部	東　洋一	紀藤　康宏	中村　伸一
				早　来	豆類生産振興会早来支部	高田　弘幸	宮本　義彦	文字　玲雄
				追　分	追分豆類生産振興会	岩倉　啓一	谷口　龍治	森江　和宏
				厚真・穂別	厚真町畑作振興会豆部会	海沼　孝太	中田　峻平	森　昌弘
				早　来	てん菜生産振興会早来支部	坂田　英樹	松原　信一	佐藤　雄二
				追　分	追分てん菜生産振興会	大久保　悟	牧野　浩明	森江　和宏
				厚真・穂別	てん菜生産振興会厚真支部	大蔵　巧	木本　幹二	越後谷　直広
広域そ菜園芸連絡協議会	竹葉　淳	土屋　祐規 山崎　基憲	横山　達也	早　来	そ菜園芸振興会	竹葉　淳	宮本　義彦	清水　和人
					いんげん部会	竹田　大介		清水　和人
					北海道21世紀村	出口　良助		清水　和人
				追　分	そ菜園芸振興会	安井　貴志	西島　隆行	森山　拓
					アサヒメロン組合	安井　貴志	宮内　康博	森山　拓
					カンロ組合	友広　博	鎌野　太地	森山　拓
					ごぼう生産部会	大久保　悟	菅原　修介	森山　拓
				厚　真	厚真町ハスカップ部会	山口　善紀	土居　元	伊藤　賢治
				穂　別	穂別営農振興会議	土屋　祐規	後藤　馨	窪田　剛士
					ほべつメロン生産部会	後藤　馨	土屋　祐規	中村　伸一
					むかわ町穂別馬鈴しょ原種生産組合	由布　龍哉		宮田　洋介
					穂別アスパラ部会	柴田　健志	中澤　浩	富士野　周平
					穂別カンロ生産部会	小林　朋導	中村　由美	遠藤　拓
					穂別長芋生産部会	土屋　祐規	由布　龍哉	窪田　剛士
					穂別葉菜栽培研究会	清川　正	菊地　英智	近藤　克之
					穂別ニラ栽培研究会	菊地　英智	中村　則彦	大江　雅之
広域南瓜生産部会	石崎　憲一	石井　幸秀	横山　達也	早　来	広域南瓜生産部会　早来支部	小谷　暁志	梅田　智之	清水　和人
				厚　真	広域南瓜生産部会　厚真支部	石井　幸秀	小谷　一樹	横山　達也
				穂　別	広域南瓜生産部会　穂別支部	石崎　憲一	柴田　健志	富士野　周平
広域ほうれん草部会	竹葉　淳	角地　渉 上田　文夫	伊藤　賢治					
広域ブロッコリー部会	金谷　清万	大垣　勇人	坂口　元					
広域馬鈴薯生産部会	山崎　基憲	小泉　貴裕	川原　拓也					
広域加工馬鈴薯部会	近藤　健一	海沼　孝太	川原　拓也					
広域グリーンアスパラ部会	宮本　義彦	竹葉　淳	清水　和人					
広域花卉専門部会	水橋　勉		早坂　祐哉	苫小牧	花卉生産組合	斉藤　謙吉	長井　和宏	
				追　分	花卉生産部会	水橋　勉	富永　勝利	竹山　幸司
				厚　真	厚真町花卉部会	桐木　洋光	折坂　泰宏	早坂　祐哉
広域いちご部会	山川　克基	木村　光子	坂口　元					
				安　平	安平町菜の花生産振興会	中道　幸夫	小西　克典	森江　和宏
広域畜産振興連絡協議会	富樫　瑛一朗	小松　浩 松本　拓哉	吉岡　淳					
広域酪農振興会	松本　拓哉	城畑　克考 伊藤　雄太	剣持　拓史					
広域和牛振興協議会	小松　浩	中村　俊太 浅野　美樹 鍋野　高志	居川　渉	白老・苫小牧	和牛生産改良組合	中村　俊太	大津　親禎	岡光　寛夫
				安　平	和牛生産改良組合	鍋野　高志	田中　健太	平井　義樹
				厚　真	和牛生産改良組合	浅野　美樹	村田　尚洋	新岡　駿斗
				穂　別	和牛生産改良組合	小松　浩	東　洋一 中村　崇之	新岡　駿斗
広域和牛振興協議会担い手部会	福島　幸太朗	上村　将兵	新岡　駿斗					
広域養豚振興協議会	富樫　瑛一朗	清野　光弘	居川　渉					
もぎたて市部会	桐木　政三	反町　貴志 河村　美枝子	川副　春哉					
広域青年部	末政　知和	小西　勇生 上村　将兵 宮内　逸己	吉野　智貴	白老支部	活動休止			
				早来支部	広域理事　小西　勇生	宮本　悠揮	梶原　英俊	文字　玲雄
				追分支部	広域理事　宮内　逸己	橋本　祥彰	宮内　逸己	藤井　裕也
				厚真支部	広域理事　末政　知和	藤本　貴則	渡部　勇樹 米澤　隼	逢坂　聖慈
				穂別支部	広域理事　上村　将兵	中澤　誠弥	石崎　大知	宮田　洋介
広域女性部	溝口　千晴	田代　敦子	森山　妙	白老支部	広域理事　吉田　亜須香	中村　利香	阿部　衣里	本間　登美子
				苫小牧支部	広域理事　溝口　千晴	溝口　千晴	野村　真理子	中塚　健太
				早来支部	広域理事　門田　千夏	内藤　圭子	小西　久仁子	且見　利奈
				追分支部	広域理事　長谷川　聖子	谷口　麻弥	林出　絢子	下田　奈穂子
				厚真支部	広域理事　秋永　晴美	窪田　かおり	土居　琴恵	森山　妙
				穂別支部	広域理事　田代　敦子	宮崎　晴美	石崎　代里子 中澤　珠美	大頭　歩実

さんさんかがやく 期待の農力

肉牛経営の規模拡大を目指し

中西（なかにし）　幸仁（ゆきひと）さん（55歳）安平町遠浅

幸仁さんは、北海道追分高等学校を卒業後、自衛隊に31年務め新規就農を果たし今年で6年目を迎えた。現在は、25頭の経産牛のほか、牧草14ha、今年度より秋小麦5haを母の貞子さん、妻の洋子さんの3人で飼育・栽培管理を行う。

就農のきっかけ

幸仁さんが就農を決めたのは父が引退をすることになったから。幸仁さんは「父が引退すると聞いた時、自衛隊在職中も手伝いをしていたことと、父と母が育成してきた良い牛がいるのに辞めるのはもったいないと思い、妻と相談してやってみようと思った」と話す。

最初は2年ほど他で研修を受けることも考えたが、俺が教えてやるという父の一言で研修には行かず、父の背中を見て覚えたと当時を振り返ってくれた。

実際に就農して

農業を始めて感じたことは、「自分でやる大変さ」と幸仁さんは話してくれた。

コロナやウクライナ侵攻の影響で、資材高騰や牛の価格下落などが続き、経営の厳しさを感じ辞めようと思ったこともあった。しかし「現在まで続けている理由は」という問いに「やっぱり相手は生き物だから。最後まで責任を持ちやり遂げたい」と笑顔で話してくれた。

また、幸仁さんは「和牛は人それぞれやり方が違うと思うが、牛にのびのび過ごして欲しいという思いから常に放牧している。放牧地は木に囲まれていて風通しはいいが、夏の暑さに対する対策をしっかり行なっていきたい」と話してくれた。

農業のやりがいと目標

「農業のやりがいは達成感を感じたとき。農業は大変なことだらけだけど、自分が頑張れば結果になって返ってくると思っている」と話す。

今後の目標は「肉牛経営がメインなので頭数を増やしていきたいが、頭数を増やすことで牛がストレスを感じないよう牛舎の増築が必要。また労力も増えるため慎重に行っていきたい。さらに以前からやりたいと思っていた畑作を今年から始めた。少しずつではあるが面積を増やしていけるよう頑張りたい」と話してくれた。

理事会報告

令和７年５月２日（金）に総合営農センター １号室と各支所会議室で第５回理事会が開催され、次の事項について報告、協議、承認がされました。

報告事項

1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 3月末財務報告について
3. 組合員の異動について
4. 固定資産の取得、処分について
5. 支所の日と固定資産確認・車両管理点検実施について
6. 令和7年度給与改定について
7. 経営定期点検　6年度改善事項の対応状況について
8. JAバンク経営戦略シートの策定について
9. 令和7年度共済推進要領について
10. 令和7年度水稲作付け意向調査及び非主食用米配分について
11. 令和7年度穂別活性化基金の運用について
12. 厚真地区道営圃場整備事業龍神第1地区換地委員会委員の選任について
13. 北海道厚真福祉会の理事・評議員の農協推薦について
    ※理事：兵頭利彦（元JA常勤役員）　※評議員：宮西純子（元厚真女性部長）
14. 追分地区農産物集出荷貯蔵施設・外構工事指名競争入札に係る入札結果について

協議事項

1. 役員組合員訪問の実施について

付議事項

議案第１号　行政庁に対する業務報告書の提出について
議案第２号　7年度ディスクロージャー誌策定について
議案第３号　役員との利益相反取引の開示内容について
議案第４号　出資の減口と譲渡について

【広域】

ホクレン新採用職員の農協・農作業実習

～生産現場を肌で感じる～

JAとまこまい広域は、ホクレンの令和7年度新採用職員研修として、4月21日にJAの概要説明並びに施設の見学、22日から25日にかけて生産者現場での農作業実習を開催し、4名が参加した。新たにホクレンへの仲間入りを果たした新人職員が道内各地のJAへ赴く当実習は、人材育成を目的とした能力開発研修の一環で行われる。

初日は、厚真町の本所会議室でJAの概要を学んだのち、各施設を見学し農協業務について理解を深めた。安平町遠浅の土壌診断センターでは、営農部の上田課長補佐より土壌診断設備と農業における土の重要さについて説明され、「農協における営農技術指導はどのようなものか」といった質問が挙がるなど参加者は熱心に聞き入っていた。2日目からは、生産者のもとでメロンのわき目取りや春小麦の播種作業を体験した。実際にメロンのわき目取り作業を体験した職員は「思ったよりも難しいし手間がかかる。メロンの価格が高い理由を身をもって体験できた。今後はこの経験を生かして業務に励み、生産者の皆さんへ還元していきたい」と意気込みを語った。

今回、生産者を含めご対応いただいた皆様におかれましては、大変お忙しい時期に誠にありがとうございました。

上田課長補佐による土壌診断の説明に聞き入る実習生　左から 千葉さん 坂井さん 加藤さん

丹羽俊介さんのメロンハウスで作業する高瀬さん

※今回受け入れしたホクレン新採用職員
加藤拳佑（かとうけんすけ）さん　坂井基起（さかいもとき）さん
高瀬佳吾（たかせけいご）さん　千葉創太（ちばそうた）さん

さんさん あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

今後発生が予想される畑作害虫について

気象庁の長期予報によると、今年度も高温で経過すると予想されています。近年は高温により害虫の飛来や発生が早まっており、FAX 情報や病害虫防除所の発生予察情報を参考に、こまめなほ場観察で初発を見逃さず防除を開始しましょう。

【大豆】マメシンクイガ（病害虫防除所より令和7年度に多発が予想されています）

加害時期	8月上旬～9月上旬
加害部位	子実
特徴	成虫は早朝～10時頃と夕方（16～18時頃）に群飛する習性がある。

マメシンクイガ（成虫）

マメシンクイガ（幼虫）

【大豆】カメムシ類（病害虫防除所より令和7年度に多発が予想されています）

加害時期	7月下旬～8月下旬
加害部位	子実
特徴	成虫または幼虫が開花後に膨らんできた未熟莢を吸汁加害することにより、子実に刺し痕をつける。莢の外から刺し痕が見えないため、被害に気づきにくい。

エゾアオカメムシ（成虫）

カメムシ被害粒（大豆）

【小豆】アズキノメイガ

加害時期	7月下旬～9月中旬
加害部位	莢・茎・子実
特徴	侵入時に食害した穴から外へ、褐色の糞を大量に排出する。

アズキノメイガ（幼虫）

アズキノメイガ幼虫による食害の様子

【適期に対応し被害を防ぎましょう】

	対策	使用薬剤名
マメシンクイガ	ほ場観察や予察情報を参考に、飛来が確認されたら適期に防除する。 ※防除の目安は、大豆の莢が2～3㎝程度になった約6日後と約16日後の2回です。	例1）①プレバソンフロアブル5 ②ゲットアウトWDG 例2）①ゲットアウトWDG ②トクチオン乳剤 ※プレバソンフロアブル5はカメムシ類に効果が無いため、2回目には必ずカメムシ類に効果がある薬剤を散布する。
カメムシ類	マメシンクイガの1回目または2回目防除にカメムシ類にも効果の高い薬剤を散布する。	
アズキノメイガ	小豆の開花後7～10日目から薬剤を散布する。	プレバソンフロアブル5 スミチオン乳剤　など

※使用薬剤の倍率や使用方法などは、防除ガイドや農薬ラベルを確認しましょう。

ワンポイント営農情報

補植用苗の処分と畦畔雑草の刈り取り

1.補植用苗の放置は、いもち病の早期発生やずりこみの被害だけでなく、周辺農家に迷惑となります。

（1）　補植用取置苗は、補植作業が終了したら、直ちに処分します。

①取置苗は露がつきやすく乾きにくく、いもち病が発生しやすいので畦畔や付近に裏返しておくだけでは不十分です。

②処分が6月中旬以降の時はよく観察していもち病が発病していないか確認する。発病していた場合は周囲の水田に伝染していないか注意します。

（2）　早期発生は大きな被害につながるので、ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

2.イネミズゾウムシとイネドロオイムシの多発生圃場対策

成虫は畦畔や近隣の野草地に移動して越冬します。畦畔雑草の刈り取りは歩く場所だけでなく、側面も含めて早めに刈り取るようにします。

水田の放置苗

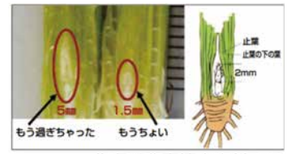
葉いもちの被害

葉いもち病斑

シリーズNo.59　おいしい米づくり

～生育時期を把握し、適正な中干しで、高温による品質低下の防止を！～

幼穂形成期の確認は、これからの管理をするための重要な目安となります。品種・ほ場グループ毎に把握するようにしましょう。



北海道農産協会資料より

近年は、夏場の高温の影響で、倒伏や白未熟粒による品質低下・歩留り低下が見られます。

水田管理においては、幼穂形成期前と冷害危険期終了後の中干しにより、これらの低減効果が確認されています。

中干しは、ワキにより弱った根を復活させる効果と土壌を引締めて倒伏を抑制する効果があり、良好な登熟の維持が可能となります。

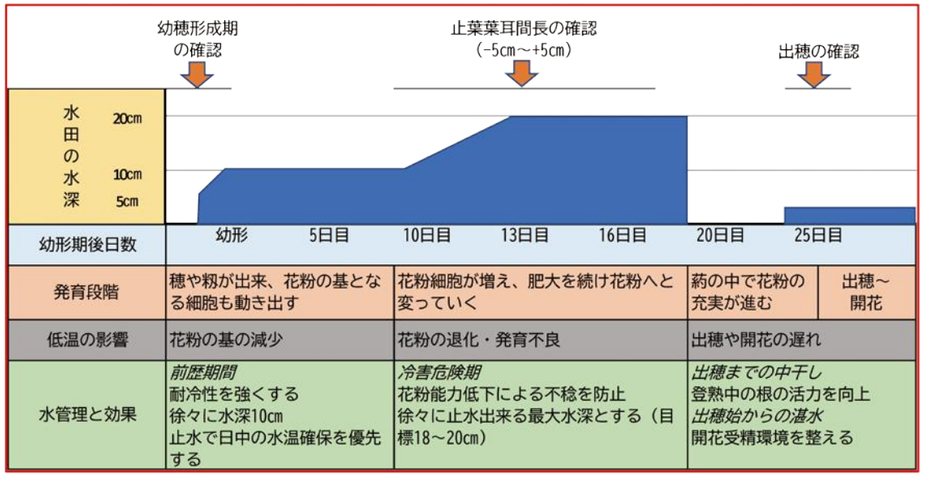


図　幼穂形成期からの水管理のポイント

農産担当者道外消費地視察研修
施設調整業務へつなげる

JAとまこまい広域は4月21日～23日、道外消費地視察研修を実施し、松原常務と農産施設担当者3名が参加した。

本研修は、農産施設担当者の就業意欲向上やスキルアップ、担当品目に関する消費地環境の研修を目的とし、あづま食品（株）（栃木県宇都宮市）、ミツカン（群馬県館林市）、全農パールライス神奈川工場（神奈川県綾瀬市）、JA全農本所（東京都千代田区）、ホクレン東京支店（東京都千代田区）の5カ所を視察した。

▲ホクレン東京支店で意見交換を行う様子

▲あづま食品（株）にて

納豆の生産工場では、長時間大豆を水に浸す「浸漬（しんせき）」、そして圧力釜で煮込む「蒸煮（じょうしゃ）」という作業が行われる。また、納豆菌を加えて発酵させた後、冷蔵庫で発酵を止める工程が品質を安定させるために必須であることを学んだ。

精米工場では、異物除去や衛生管理の徹底、高品質での出荷、さらに多様な包装形態への対応、品質管理の取り組みなどの説明を受けた。

今回の研修を終えて、参加した明石調査役は「各訪問先での見学や意見交換を通じて貴重な経験を積むことができ、今後の施設調製業務に対する意欲も一層高まり、大変有意義な研修となった」と語った。

水稲の奨励品種現地試験に向けた播種作業

胆振管内の厚真町で22日、水稲奨励品種現地試験に向けた播種作業が行われた。この試験は毎年、同町宇隆地区にある石橋公昭さんに委託設置された試験水田で行われる。当日は石橋さんの作業舎で関係機関も含め10名で行われた。

作業内容は、正確なデータを得るため、育苗ポットの中に籾を3粒ずつ手作業で入れていく。その後は覆土をし、育苗ハウスに並べるといった手順で、約2時間で作業が終了した。

▲農業改良普及センター職員の作業説明

▲職員による播種作業の様子

この試験は、栽培のしやすさ、収量、病害虫の耐性などを確認するために全道各地域の農業改良普及センターが担当して行っている。現在、北海道の主力品種となっている「ゆめぴりか」や「ななつぼし」もこの試験から作付けが始められた。

近年は病害虫の耐性よりも消費者が好む味の品種が奨励品種に選ばれる傾向にある。どの項目に比重を置くかは政策的な要素も関わってくるのでしっかりと精査してもらいたい。

ＪＡ日誌

2025 6月

16日	月	支所の日･オフサイトミーティング（白老、追分、苫小牧） 農林水産省来所（ハスカップ）
17日	火	合同会社説明会「就活祭」 支所の日・オフサイトミーティング（早来、穂別）
18日	水	オフサイトミーティング（本所）
19日	木	組合員訪問（厚真支所） 日本政策金融公庫との意見交換
20日	金	第６回経営会議
21日	土	
22日	日	業界・仕事研究&インターンシップフェア
23日	月	第１回生産施設再編検討委員会（広域米・畑作組織役員） 予定 厚真支所営農区協議会
24日	火	第５回企画会議、高卒企業説明会
25日	水	共済一斉推進（厚真地区）出陣式
26日	木	組合員訪問（穂別支所）、ホクレン商事株主総会 米生産・販売対策専門委員会、早来支所施設運営協議会
27日	金	新札幌イオン「まるごと穂別フェア」 ～29日
28日	土	あつま田舎まつり ～29日
29日	日	JA 厚真支所豊穣祈願祭
30日	月	JICA 視察研修

2025 7月

1日	火	試用期間解除辞令、新採用職員フォロー研修 日胆地区乳質改善協議会（苫小牧）
2日	水	ひかりファーム常総視察研修受入
3日	木	2025JA とまこまい広域ホルスタインショウ
4日	金	北海道花き生産連合会現地研修会、４地区農協監事協議会 夏期研修会、厚真支所営農区協議会視察研修（室蘭他）
5日	土	JA 役職員胆振野球大会（むかわ） あびら夏うまかまつり ～６日
6日	日	
7日	月	ミツカン 産地訪問
8日	火	みのり監査期中Ｉ ～11日
9日	水	日胆組合長会、作物別対策委員会 予定
10日	木	ホクレン肉牛市場
11日	金	ホクレン乳牛市場、第７回経営会議
12日	土	苫小牧消費者協会「食と農業を学ぶツアー」（厚真水稲圃場）
13日	日	
14日	月	自衛隊若年定年制・任期制合同企業説明会、JA 共済 R6年度全道LA・スマサポ大会（JA 店舗顕彰 J2：第2位 本所）、たまや・全農パール 産地訪問
15日	火	

JAとまこまい広域が北海道信連の優績部署表彰を受ける

４月23日にJAとまこまい広域の厚真町本所において、令和６年度「北海道信用事業優績JA」の表彰式が執り行われ、『JAバンクローン部門』の優績JAとして、北海道信連札幌支所の野崎義智支所長より金融共済部融資課の山下洋平課長へ表彰状と副賞が授与された。

同表彰は「北海道信用事業優績JA表彰選定基準」における５つの重点推進項目において、優秀な成績を収めたJAに贈られるもので、５つの部門別表彰と各部門を包括した総合表彰がある。当JAは『JAバンクローン部門』で６位（総合表彰受賞JAを除いて2位）、総合順位は22位であった。

日高ブラック＆ホワイトショウで準最高位を受賞

４月24日、南北海道家畜市場（安平町早来）で開催された第42回日高ブラック＆ホワイトショウで、厚真町浜厚真の山田耕司さんが出陳した経産牛「オーシヤン カーメル シエラ」が経産の部で準最高位を受賞した。なお、５月24日～ 25日開催の2025北海道ブラック＆ホワイトショウには、当JA管内より２頭出陳された。

お悔やみ

謹んでご冥福をお祈りいたします。

月日	地区	氏名	享年
4/24	むかわ町	宮田 榮子さん	93
4/28	苫小牧市	佐々木ヤエ子さん	92
5/12	安平町	岩倉ミエコさん	91

ホクレン南北海道黒毛和種市場

広域農協支所別取引成績（６月）

令和７年５月15日

	性別	成立頭数（頭）	価格平均（円）	平均日齢／体重（kg）	平均kg／単価（円）
白老	去勢	31	670,323	1.174	1,956
	雌	19	619,000	1.099	1,833
早来	去勢	26	643,462	1.148	1,818
	雌	16	594,188	1.106	1,732
厚真	去勢	21	653,714	1.202	1,832
	雌	16	554,313	0.981	1,804
穂別	去勢	25	657,460	1.193	1,841
	雌	25	567,120	1.063	1,753
追分	去勢	8	644,875	1.092	1,914
	雌	5	611,800	1.114	1,750
とまこまい広域	去勢	111	656,198	1.171	1,870
	雌	81	584,864	1.067	1,777
胆振管内	去勢	203	671,325	1.169	1,925
	雌	153	574,131	1.041	1,770
市場計	去勢	1,054	677,237	1.153	1,985
	雌	720	570,935	1.031	1,800